

令和2年度

事業報告書

一般財団法人

東京都高等学校野球連盟

【新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて はじめに】

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、緊急事態宣言の発令や学校の全国一斉休校などにより、予定されていた事業のほとんどが実施できなかった。また、東京オリンピックも一年の延期が決定し、今年度の予定も大幅に変更となった。現在もなお第三波の感染流行の兆しがあり、今後も先行きの不透明感を感じながらの舵取りになることが予想される。高校球児にとっても非常に残念な一年となった。第92回センバツ高等学校野球大会、第102回全国高等学校野球選手権大会が中止となる未曾有の事態となった。このような状況の中でも、代替え大会として2020年夏季東西東京都高等学校野球大会が無観客でも開催できたことは、大変意義のあるものであったと実感する。高校3年生の集大成の舞台が用意できたことは、非常に満足している。「コロナとの共存」という新しい生活様式を実践し、秋季大会は一次予選が無観客、本大会が有料観客の形で実施した。代替え大会の経験を活かして、加盟校がコロナ対策を怠らず、大会に臨んでくれたお陰で安全に大会を終了することができた。全国の高校野球の今後の大会運営の指針を示す意義のあるものであったと実感している。

1 事業の内容

(1) 高等学校野球の普及、振興、指導および監督

①年度内に予定していた理事会は計画通りにはいかず、大会開催の可否をめぐる会議や安全安心に大会運営がなされるガイドラインの確認に時間を割くのがほとんどであった。十分な感染対策を行った上で必要回数の会議を行った。次年度は、オンラインの会議も検討の余地はあると思う。

②責任教師・監督会議は中止になった。野球要項は加盟校に郵送し、責任教師に熟読するようお願いした。

③毎年の最重要課題であるフェアプレーの徹底は野球要項に記載し理解を促した。具体的には、加盟校の指導者、並びに部員の偵察行為を全面的に禁止という内容。ほぼ周知徹底はできつつあるが、次年度も継続的にフェアプレーの精神を伝えたい。

④不祥事件の根絶に向け、抽選会等で加盟校への指導を行ってきた。結果は、本年度は26件（日本高野連17件、東京都高野連止まり9件）の不祥事件があり、根気よく加盟校への危機管理の認識を伝達しなければならない。不祥事件に関しては、活動時間が短いこともあり、今年度の件数は例年に比べて少なかった。年々減少してはいるが、根気強く、体罰のない健全な指導を今一度、周知徹底する必要がある。

⑤ホームページは、コンテンツの充実を図った。新型コロナウイルス対策の特設ページを作成。このページを十分に活用し、加盟校との連絡を密に取った。また、現在では定着している速報システムなどにより、スピード感を持って情報を提供した。また様々な連盟関連の連絡事項がホームページより確認する傾向にあり、利用者に合ったサービスを提供できているように感じる。

⑥加盟校が270を超え、審判員の確保には本年度も非常に苦勞した。若い世代の審判員の育成が急務である。本年度は学生審判の講習会のみが実施できた。学生時代にこの審判講習会を経験し、将来的に審判員を目指す契機になることを期待している。連盟としても、審判員の増員に向け、推薦書の依頼を加盟校に呼びかけた。今後も審判部と連携を密にして対策を検討したい。

⑦本年度の野球振興部事業もすべて中止にした。未就学児の参加者が多いこの事業では、安全が確保できないことが大きな理由である。

⑧一般財団法人化に伴い、還元事業も代替え大会無観客試合による経済的逼迫をうけて今年度はできなかった。次年度は必ず実施したい。ただし、3年生野球部員に対し記念品（パスケース）を贈呈した。

(2) 高等学校野球大会ならびに試合の開催及び協力

①令和2年度春季東京都高等学校野球大会

緊急事態宣言により中止。

②第102回全国高等学校野球選手権大会東西東京大会

日本高等学校野球連盟・朝日新聞社より中止が決定された。

【代替え大会】

2020年夏季東西東京都高等学校野球大会

(東東京大会) 令和2年7月18日(土)～8月8日(土)

神宮・都営駒沢・江戸川区・大田スタジアム他

参加校130校 優勝校 帝京高等学校

(西東京大会) 令和2年7月19日(日)～8月7日(金)

ダイワハウススタジアム八王子・府中市民・ネッツ多摩昭島・多摩市一本杉・市営立川・八王子市上柚木公園・町田市小野路

参加校126校 優勝校 東海大学菅生高等学校

(東西対抗戦) 令和2年8月10日(月)

ダイワハウススタジアム八王子 優勝校 東海大学菅生高等学校

※第102回全国高等学校野球選手権大会東西東京大会の中止に伴い、代替え大会を実施した。2020年夏季東西東京都高等学校野球大会は感染対策を行い、無観客試合にて実施。観戦できるのは野球部員と3年生保護者2名までと制限を設けた。感染者が全国一の東京都において開催の是非に関しては、理事会にて幾度となく議論した。休校明けで学校の教育活動に支障をきたすことも考慮して開催期間を遅らせ、夏休みにかかる日程に変更した。また、加盟校にも理解を得るため、無観客試合のガイドラインを作成し配布した。今大会における様々な規制を一冊に網羅し、関係者各位に理解を求めた。しかしながら、今大会の最大の主旨は高校3年生に有終の美を飾らせた一心である。結果的に甲子園には繋がらなくても高校野球に情熱を傾けた日々が色あせることのない最終ステージを用

意できたことは教育的にも良かったと感じている。大会中は、第二波の感染状況の中でも徹底した感染対策によって感染の症例は出ず、無事に大会を終了することができた。

東東京大会の優勝は帝京高等学校。西東京大会の優勝は東海大学菅生高等学校であった。また、東西の優勝校による東西対抗戦も実施した。東海大学菅生高等学校が9回逆転サヨナラで勝利し、白熱の夏の大会は幕を閉じた。開催の賛否はあったが高校3年生に最後のステージを設定できたことは意義深いものだと実感する。未曾有の事態を強い志をもって開催にチャレンジしたことは大変良かったと思うと同時に今後も続くであろうコロナとの闘いに邁進しなければならないと切に思う。

③令和2年度秋季東京都高等学校野球大会

一次予選は24の会場に分かれ、242チーム（連合チームがあるため）が参加。9月12日（土）～9月22日（火）で実施。64の代表校が10月17日（土）からの本大会に出場。本大会は10月17日（土）から10日間。決勝は11月15日（日）で、64校が神宮・ダイワハウススタジアム八王子を含め7球場を使用し開催。なお、本年度は東都大学野球連盟の入替戦が行われなかったため単独開催。優勝校は東海大学菅生高等学校（6年ぶり3回目）。準優勝は日本大学第三高等学校。

※代替え大会の無事終了に胸をなでおろす間もなく、秋季大会の開催となった。夏の大会の経験を踏まえ、感染対策には更なる注意を払いながらも次なるステージへの挑戦が課題であった。一次予選は学校の施設を利用した24会場での試合のため会場校への教育的配慮から保護者を含め、完全無観客試合にて実施。本大会は有料観客試合にて開催した。全国一の感染者数を擁する東京都においては、難しい舵取りであったが、「コロナとの共存」ということを念頭に次なるステージにチャレンジした。この有料観客試合については、先に大会を実施している東京六大学野球連盟からご指導を仰ぎながら、大規模スポーツイベントのガイドラインを熟考し、有料観客試合用ガイドラインを新たに作成し加盟校をはじめ関係各位に理解を求めた。「密をつくらない」「消毒の徹底」「ソーシャルディスタンスの確保」を常に意識し、大会を運営した。一般客にはメールアドレスの登録をお願いし、緊急時の後追い対策も行った。また、国の推奨アプリへの協力も訴えながら感染対策を徹底的に施した。各球場の関係者にも多大なるご尽力を賜り、恙なく大会を終了することができた。結果的にどの球場においても球場収容人数の約30%を超えるような集客ではなかった。今大会の有料観客試合の実施は全国の加盟連盟のモデルケースになるものと自負している。何よりも感染者を出さず無事に大会が挙行できたことは良かったと思う。

(3) 高等学校野球の調査・研究

今年度の調査研究事業はすべて中止した。

(4) 高等学校野球選手、部員などのスポーツ障害予防・健康増進

本年度は夏季大会・秋季大会において医師の導入を行った。試合中の頭部打撲、その他のアクシデントを予測して球場でのサポートをお願いし、救急対応の危機管理を実践した。結果的に医師の診断を仰ぐ事故はなかった。また、準々決勝より、理学療法士を球場内に常駐させ、選手のケアを行った。

(5) 高等学校野球に関する講習会・研究会の開催

学生審判の講習会を2月19日(日)に実施した。今年度実施できた唯一の講習会であった。会場校の24校から2名の学生審判が参加し、基本となるジャッジの講習を開催した。基本的に自校での経験がある参加者が複数いたため、高いレベルでの講習内容となった。次年度以降も継続的な取り組みを行いたい。東京の登録審判員の講習会はすべて中止。記録員・アナウンス研修会も中止となった。指導者研修会も会場内の密が避けられないことが予想され中止にした。高校野球200年構想の事業として野球人口の拡大を目的とする野球振興事業もすべて中止になった。

(6) 野球を通じた国際交流、国際相互理解の推進

本年度は東南アジア支援事業の一環として加盟校指導者の協力を得てインドネシアでの野球技術指導を予定していたが、7月に中止を決定した。この事業に関しては凍結したいと考えている。

(7) 高等学校野球に関する関係諸団体との協力・提携

東京都中体連、関東地区高野連、全国九地区高野連、並びに日本高野連とは密接な関係を持ちながら、意見交換を行い、各行事を遂行した。関東地区高野連とは、様々な意見交換を交わし、有意義な情報交換ができた。また、東京都中体連とも継続的な連携を維持していきたい。円滑な関係を保ちつつ諸団体と建設的な意見を交わし、さらなる関係構築に努めたい。

(8) その他この法人の目的達成に必要な事項

一般財団法人化に伴い、公認会計士指導の元、様々な規則の充実を図った。今後適宜必要な事項への検討を行う。

硬式 272校
軟式 73校

部員数約9,300名
部員数約1,400名

硬式部

諸会議の状況

1、常務理事会	2月17日(月)、3月12日(木)、5月7日(火)、 6月29日(月)、12月8日(火)、	5回
1、選手権運営委員会	6月29日(月)	1回
1、理事会	2月18日(火)、2月27日(木)、3月25日(水)、 5月8日(金)(持ち回り)、6月1日(月)、 6月12日(金)、7月3日(金)、8月24日(月)、 10月5日(月)、11月15日(日)、12月18日(水)	11回
1、夏季大会委員会	7月13日(月)、	1回
1、抽選会	7月4日(土)、8月29日(土)、 10月12日(月)	3回
1、球場主任会議	5月22日(金)、6月5日(金)、6月19日(金)、 10月5日(月)	4回
1、一次選会場校責任者会議	2月25日(月)、8月27日(木)	2回
1、審判講習会	2月16日(日)、	1回
1、審判幹事会	2月28日(金)、7月12日(日)、9月6日(水)	3回
1、評議員会	2月27日(木)、8月24日(月)	2回
1、監査	2月5日(水)	1回
1、審判割当会	7月12日(日)、9月5日(日)	2回
1、審判員ブロック大会中間報告会	10月14日(水)	1回
1、国際交流委員会	1月31日(金)、3月3日(水)	2回
1、東京ドーム委員会	3月12日(木)	1回

軟式部

諸会議の状況

1、理事会	1月11日(土)、2月16日(日)、4月5日(日)、 5月3日(日)、6月16日(火)、7月31日(金)、 9月22日(火)	7回
1、記録員講習会	2月16日(日)	1回

本連盟主催大会

夏季交流戦 7月24日(金)、27日(月)、29日(水)、
8月24日(月)～26日(水)

秋季大会 支部予選：8月下旬
都大会：9月6日(日)、13日(日)、21日(月)、
22日(火)、